加賀検定

第 11 回　加賀ふるさと検定試験問題

上級　（全６０問）

2023 年 12 月 17 日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ〇で囲って下さい。（黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと）

1　加賀市の農家では、仏壇（ぶつだん）を設置した座敷（ざしき）を（　　）と呼んでいた。

①ナンド　　② デイ　　③ オエ　　④ ニワ

2　動橋町の振橋（ふりはし）神社には、昔、村内に娘たちを奪（うば）っていく毒蛇（どくじゃ）がいたが、（　　）が退治（たいじ）したという言い伝えがある。この毒蛇伝説が現在のぐず焼き祭りの起源（きげん）とされている。

①オオナムチノカミ　② オオヒコノミコト　③ イザナギノミコト　④スサノオノミコト

3　およそ 6 千年前、当地はもともと入江や浅い海であったが、その後、大聖寺川や動橋川から運ばれてきた土砂が堆積（たいせき）して平野となった。こうしたところは（　　）平野と呼ばれている。

① 集積　② 沖積　③ 湖跡　④ 海跡

4　昭和 29 年、国営加賀三湖干拓（さんこかんたく）事業により、柴山潟の一部が埋（う）め立てられ水田となった。これにより、潟（かた）の面積は、約（　　）k ㎡から 1.7 k ㎡と縮小した。

① 2.3　② 3.6　③ 4.8　④ 5.4

5　片野海岸の長者屋敷跡（ちょうじゃやしきあと）では、海底火山の噴火（ふんか）による火砕流（かさいりゅう）がもたらしたと考えられる（　　）が露出した地層や安山岩塊を間近に見ることができる。

①凝灰岩（ぎょうかいがん）　② 玄武岩（げんぶがん）　③花崗岩（かこうがん）　④ 砂岩（さがん）

6　天然記念物（てんねんきねんぶつ）の鹿島（かしま）の森は、石川県に所属し、アカテガニや（　　）などの珍しい動物が生息している。

①ノミハマグリ　②ツルガマイマイ　③ ヤマトシジミ　④ カバサクラガイ

7　山中温泉東谷地区（ひがしたにちく）に所属（しょぞく）する集落で、大聖寺川上流にあるのは（　　）町である。

① 杉水（すぎのみず）　②大土（おおづち）　③今立（いまだて）　④　真砂（まなご）

8　加賀市内でも外来種（がいらいしゅ）の動物が多く生息（せいそく）し、生態系（せいたいけい）に大きな影響（えいきょう）を与えているが、私たちがよく見かける（　　）も外来種である。

①キジバト　②カラスバト　③ドバト　④アオバト

9　小塩辻村の十村、鹿野（　　）は、明治２年、中田・長谷田・上原・塚谷の紙屋谷４ヶ村の荒廃した土地を開墾するために紙屋谷用水を完成させた。

①　小四郎　　②　源太郎　　③喜三郎　　④　伊之助

10　加賀の北前船主（　　）は、明治 22 年、函館に拠点を移し北洋漁業に転身し、千島で定置網漁を成功させた。

①　大家七平　　②　西出孫左衛門　　③　広海二三郎　　④　久保彦助

11　大聖寺仲町の機業家（　　）は、羽二重縮緬などの製織法を改良し、大聖寺絹の発展を図った。

①山口宗一　　②　篠原藤平　　③　山田長太　　④　吉野喜市

12　大聖寺藩医竹内家の次男、竹内玄同は、長崎で（　　）にオランダ医学を学び、その後、江戸神田で種痘所を設立し、院長となった。

①ロッシュ　　②　ハリス　　③　シーボルト　　④　ケンペル

13　創価学会の２代目会長となった戸田城聖は、現在の加賀市塩屋町で生まれたが、２歳で北海道の（　　）村に渡った。

①　真狩　　②　更別　　③　鶴居　　④　厚田

14　加賀市の名誉市民で、わが国における北前船研究の第一人者である牧野隆信は、（　　）の生まれである。

①　瀬越　　②　大聖寺　　③　柴山　　④　橋立

15　縄文時代早期の橋立大野山遺跡からは、（　　）文土器と呼ばれる県内最古の土器が出土している。

①尖底楕円隆起線　②　尖底楕円押型　③　丸底深鉢形豆粒　④　平底丸形撚糸

16　弥生時代前期末の（　　）からは、北陸で最も古い籾や最古の弥生土器が発見されたが、その土器は東北地方の影響が強く、縄文時代晩期の様式を残している。

①横北遺跡　　②　弓波遺跡　　③　柴山出村遺跡　　④　新堀川遺跡

17　法皇山横穴古墳群に近接する宇谷丸山では、この地域に形成された（　　）の丘陵に 13 基の横穴を築いた古墳が確認されている。

①　安山岩　　②　凝灰岩　　③　片麻岩　　④　石灰岩

18　昭和７年（1932）、二子塚町地内の狐山古墳の石棺から、全国的にも４例しか確認されていない（　　）という小さな鉄板を綴り合わせた甲冑が発見された。

①　鎖甲　　②　桂甲　　③　短甲　　④　錣

19　奈良時代末期の（　　）は、建造物の規模からみて、一般住宅とは考え難く、律令制下の郡家もしくは有力豪族などの住居に係わる遺跡ではないかと考えられている。

①西島遺跡　　②　千崎遺跡　　③　篠原新遺跡　　④　大菅波Ａ遺跡

20　平安時代になると、それまで江沼郡を代表する地方豪族であった江沼氏は京都に移り、かわって、土着国司の末裔である（　　）が新たな豪族として台頭した。

①藤原氏　　②　大江氏　　③　疋田氏　　④　長野氏

21　文永 10 年（1273）に、領家と争い土地を折半する「和与中分」を行った熊坂庄地頭職の御家人大見実泰は（　　）国の出身である。

①　相模　　②　武蔵　　③　伊豆　　④　下総

22　南北朝の動乱が始まる元弘３年（1333）、菅生社神主狩野頼広は、能美郡国人２人と共に（　　）に参陣して、新政府に属する態度を明確にした。

①新田義貞　　②　楠木正成　　③　足利高氏　　④　名和長年

23　北野天満宮領となっていた富墓庄は、室町時代中期には、宮寺領とは名目だけとなり、わずかに（　　）の後裔の高辻家が権益の一部を保つだけになっていた。

①藤原道長　　②　菅原道真　　③　源高明　　④　橘好古

24　応永 21 年（1414）に 14 世遊行上人太空が潮津道場で法要を開いた時、斎藤実盛の霊があらわれたという話をもとに、その後、（　　）が謡曲『実盛』を著した。

①観阿弥　　②　音阿弥　　③　善阿弥　　④　世阿弥

25　永禄 10 年（1567）一向一揆側と朝倉氏との間で和睦が成立し、その結果、江沼郡一揆方の（　　）・松山両城と朝倉氏方の黒谷・檜屋・大聖寺の３城が破却された。

①南郷　　②　柏野　　③　千足　　④　津葉

26　南北朝時代における南朝方の武将、畑時能の出自は（　　）の出身とされているが、俗説に大聖寺近郊の畑町とする伝承もある。

①武蔵国秩父郡　②武蔵国比企郡　③下総国香取郡　④下総国相馬郡

27　江沼郡赤尾を拠点とした一向一揆の大将藤丸新介は、天正５年（1577）越後の上杉景勝に仕え、同10年、（　　）の戦いで織田方の柴田勝家に攻められ自刃した。

①新発田城　②村上城　③砺波城　④魚津城

28　後藤才次郎は、万治２年（1659）藩命で製陶法を習いに肥前有田に赴き、（　　）で出会った明の陶工数名を伴って帰藩し、古九谷窯を開いたといわれる。

①　伊万里　②　平戸　③　長崎　④　佐賀

29　塩屋村の肝煎井斎長九郎は、天保７年（1836）大聖寺藩植物方奉行（　　）より松苗を砂丘に植えるよう命じられ、私財を投じて人工林をつくることに成功した。

①塚谷源右衛門　②　奥村永世　③　土田冶兵衛　④　小塚藤十郎

30　大聖寺城主山口宗永は、（　　）の出身で、慶長３年（1598）４月に越前北庄城主小早川秀秋の家老として大聖寺城主となり、江沼郡７万石を支配した。

①筑前国　②備前国　③山城国　④筑後国

31　初代大聖寺城代の太田長知は、慶長７年（1602）５月に加賀藩主（　　）の命で横山長知によって金沢城内で斬殺された。

①前田利家　②前田利長　③前田利常　④前田光高

32　大聖寺藩祖前田利治が万治３年（1660）４月、江戸で死去したとき、中沢・小沢・小栗の家臣３人が殉死したが、このうち小栗権三郎は５月３日に（　　）で自害した。

①宗英寺　②久法寺　③全昌寺　④寛慶寺

33　大聖寺藩主前田利明は、延宝4年（1676）に中田村五郎兵衛と足軽を加賀藩領の河北郡（　　）に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させた。

①二塚村　②二口村　③二子村　④二俣村

34　大聖寺藩主前田利章治世の正徳２年(1712)、百姓一揆が起こり、数千人の農民らは那谷寺で役人たちを包囲して、「(　　)は年貢」とする証文を書かせた。

①二　分　　②三　分　　③四　分　　④五　分

35　大聖寺藩主前田利直の治世には、家老の神谷家と村井家が政争を起こし、宝永２年(1705)には村井主殿が神谷内膳守応に(　　)を命じ政治から遠ざけた。

①大年寄　　②大老中　　③大家老　　④大長老

36　大聖寺藩では、江戸中期から菜種油や荏油のほかに桐油や椨油を生産したが、油桐の実の生産量は江沼郡(　　)地区が大半を占めた。

①東　谷　　②西　谷　　③三　谷　　④三　木

37　大聖寺藩主(　　)は、鷹狩りや遊芸を好み、藩政をかえりみなかったために、天明２年(1782)５月、加賀藩主11代前田治脩から大聖寺藩邸で幽閉を命じられた。

①前田利章　　②前田利道　　③前田利精　　④前田利物

38　大聖寺藩主は、参勤交代で下街道を利用したときは、金沢城下に宿泊するともに、金沢城へ出向き藩主や重臣に挨拶するとともに(　　)や天徳院を参詣した。

①桃雲寺　　②宝円寺　　③大乗寺　　④松月寺

39　寛永16年(1639)大聖寺藩祖前田利治が得た領地は、江沼郡133か村および越中新川郡7か村の合計分であるが、江沼郡(　　)は、父利常の養老領として外された。

①月津村　　②那谷村　　③分校村　　④中代村

40　大聖寺藩祖前田利治は、承応２年(1653)に藩財政が窮迫したため、筆頭家老の(　　)をはじめ、家臣24人を加賀藩へ返還した。

①玉井市正　　②織田左近　　③神谷内膳　　④村井主殿

41　大聖寺藩では、塩屋、小塩、瀬越、塩浜、片野村などで漁業が盛んであった。このうち、塩屋村の猟船(漁船)数は、天保15年、領内で最も多い(　　)であった。

①15艘　　②25艘　　③35艘　　④45艘

42　北前船のふる里として知られる加賀橋立村には、寛政８年（1796）（　　）の北前船主や船頭がいた。

①28 名　　②35 名　　③42 名　　④53 名

43　伊能忠敬ら測量隊８人は、享和３年（1803）６月 24 日から 27 日まで大聖寺藩領の沿岸を測量し、大聖寺町の板屋や（　　）、片野村の肝煎宅、橋立村の因随寺などに宿泊した。

①吉田屋　　②大和屋　　③京　屋　　④松　屋

44　大聖寺藩主 12 代前田利義は、嘉永５年（1852）に（　　）を金沢の野町に遣わし、吹屋の村山四郎兵衛とともに大砲の鋳造を命じた。

①西出源蔵　　②西出孫左衛門　　③西出孫次郎　　④久保彦兵衛

45　菅生石部神社の神門は、文政８年（1825）に建仁寺流の（　　）が設計し、大聖寺・加賀両藩の大工棟梁を動員して造立された。

①小堀遠州　　②山上吉順　　③山森清助　　④天日清兵衛

46　大聖寺川の河口に位置する塩屋町には、鹿島の森があり、平安時代には天台宗の霊場が、また江戸時代には萬宝院と称する（　　）の道場があった。

①真言宗　　②浄土宗　　③臨済宗　　④法華宗

47　後藤才次郎ゆかりの寺とされる、大聖寺の（　　）には、九谷焼初期の伝世品と推測される「古九谷色絵孔雀図平鉢」がある。

①本善寺　　②願成寺　　③毫摂寺　　④専称寺

48　菅生石部神社の天神講の際に、氏子の少年たちによって奉納される「蝶の舞」は、（　　）の舞・鈴の舞・蝶の舞の３種の舞を総称したものである。

①扇　　②天　　③炎　　④星

49　明治初年(1868)、大聖寺藩で預かっていた浦上キリシタンたちは、その後、金沢の（　　）に建てられた養生所に送られた。

①尾山神社　　②卯辰山　　③大乗寺　　④野田山

50　明治４年（1871）に起きた「みの虫一揆」に対し、大聖寺藩はやむなく兵士を出動させ発砲した。その結果、農民（　　）が死亡した。

①　１名　　②　２名　　③　３名　　④　４名

51　大聖寺藩士飛鳥井清（あすかいきよし）は、鉛筆製造を行なう際、ウィーン万国博覧会で鉛筆製造の技術を学んできた（　　）の指導を得た。

①佐野常民（さのつねたみ）　②井口直樹（いぐちなおき）　③小池卯三郎（こいけうさぶろう）　④真崎仁六（まざきにろく）

52　明治24年、日本を訪問中のロシア皇太子ニコライが、現在の滋賀県大津市で暴漢に襲われたが、このとき皇太子の命を救ったのは、北ヶ市市太郎と（　　）の２人の車夫であった。

①山畑甚三郎（やまはたじんさぶろう）　②北畠幸之助（きたばたけこうのすけ）　③向畑治三郎（むかいはたじさぶろう）　④北畠幸三郎（きたばたけこうざぶろう）

53　明治初年、江沼郡においては、小学校が21校設置されたが、このうち大聖寺では、錦城、京逵、旗陽、（　　）の４校の小学校が設置された。

①脩来（しゅうらい）　②有隣（ゆうりん）　③遷明（せんめい）　④玄笠（くろかさ）

54　現在の「加賀九谷陶磁器協同組合（かがくたにとうじききょうどうくみあい）」は、明治15年に（　　）を会長として発足した「江沼郡九谷画工同盟会（えぬまぐんくたにがこうどうめいかい）」が前身（ぜんしん）となっている。

①浅井一毫（あさいいちもう）　②竹内吟秋（たけうちぎんしゅう）　③飛鳥井清（あすかいきよし）　④北出塔次郎（きたでとうじろう）

55　昭和33年１月(1958)、山中町を除く９ヶ町村が合併し、(旧）加賀市が発足（ほっそく）した。翌34年には市制発足祝賀会（しせいほっそくしゅくがかい）が（　　）にて盛大（せいだい）に開かれた。

①錦城小学校　②大聖寺商工会館　③旧大聖寺町役場　④市役所新庁舎

56　江沼郡では、明治13年頃までにおよそ40の小学校が設立された。これにより、その就学率（しゅうがくりつ）は、明治６年は(　　)%であったものが、明治10年には40%に上昇（じょうしょう）した。

①　8　②　18　③　21　④　28

57　現在の片山津温泉総湯（そうゆ）は、平成24年(2012)に世界的な建築家（けんちくか）（　　）が設計したもので、全面ガラス張りで美しい柴山潟を眺（なが）めることができる。

①磯崎新（いそざきあらた）　②谷口吉生（たにぐちよしお）　③安藤忠雄（あんどうただお）　④隈研吾（くまけんご）

58　明治 13 年(1880)、大聖寺商法会議所(しょうほうかいぎしょ)が設立され、初代会頭(かいとう)に（　　）が就任(しゅうにん)した。

①梅田五月(うめださつき)　②飛鳥井清(あすかいきよし)　③石川　嶂(いしかわ　たかし)　④新家熊吉(あらいえくまきち)

59　山中温泉松浦酒造(まつうらしゅぞう)の「獅子(しし)の里(さと)」は、（　　）付近から湧(わ)き出る名水を仕込水(しこみみず)としてつくっている。

①鶴仙渓(かくせんけい)　②菊(きく)の湯(ゆ)　③医王寺(いおうじ)　④長谷部神社(はせべじんじゃ)

60　現在、山中温泉文化会館内に事務所を置く「山中商工会」は、昭和 35 年、初代会長に（　　）を選任してスタートした。

①桂田又作(かつらだまたさく)　②中曽根治郎(なかそねじろう)　③山田耕三(やまだこうぞう)　④田中　實(たなか　みのる)